



True Global Links



2016年3月期 第2四半期決算について

2015年11月13日

証券コード：1332

お問合せ先：

経営企画IR室広報IR課 03-6206-7044

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

日本水産株式会社

◆食品事業が大幅に増収・増益。水産事業は増収・減益。ファイン事業は若干の減益。

(単位:億円)	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	対前年同期比 増減額/率(%)		2016年3月期 期初計画	期初計画に対す る進捗率(%)
売上高	3,215	3,022	192	106.4%	6,360	50.6%
水産事業	1,337	1,302	34	102.7%	2,726	49.1%
食品事業	1,571	1,444	127	108.8%	2,995	52.5%
ファインケミカル事業	127	128	▲ 1	98.8%	280	45.4%
物流事業	75	71	3	105.5%	152	49.7%
その他	103	75	28	137.1%	207	50.0%
営業利益	95	102	▲ 6	93.6%	170	56.4%
水産事業	10	40	▲ 30	25.2%	60	16.8%
食品事業	62	37	25	166.1%	68	92.5%
ファインケミカル事業	22	26	▲ 4	84.0%	44	50.7%
物流事業	9	8	0	107.0%	17	53.9%
その他	4	3	0	110.5%	5	82.3%
全社経費	▲ 12	▲ 14	1	88.7%	▲ 24	52.9%
経常利益	109	115	▲ 5	94.9%	185	59.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	67	58	8	115.2%	105	64.7%
EPS(1株当たり純利益)	24.60円	21.35円	-	-	38.01円	-

◆前年同期比で増収ではあるが、営業利益は若干の減益

海外は北米が順調に推移する一方、南米は減益幅が拡大。
国内は食品事業の利益が伸長し、水産事業も堅調に推移。

【水産事業】 増収・減益

国内：鮭鱒は販売価格が下げ止まり、すりみおよび魚油・魚粉は販売価格が堅調。
海外：北米ですりみの販売数量が増加したものの、南米の鮭鱒養殖事業で飼料の高騰や魚病の影響とともに、販売価格下落と在池魚評価損拡大があり、大幅に収支悪化。

【食品事業】 増収・増益

国内：すりみなどの原材料コスト高騰や、円安による加工品の調達コスト上昇があったものの、価格改定やコストダウンに努め、家庭用・業務用冷凍食品を中心に好調に推移。チルド事業も好調を維持。
海外：北米、欧州が売上・利益とも伸長。

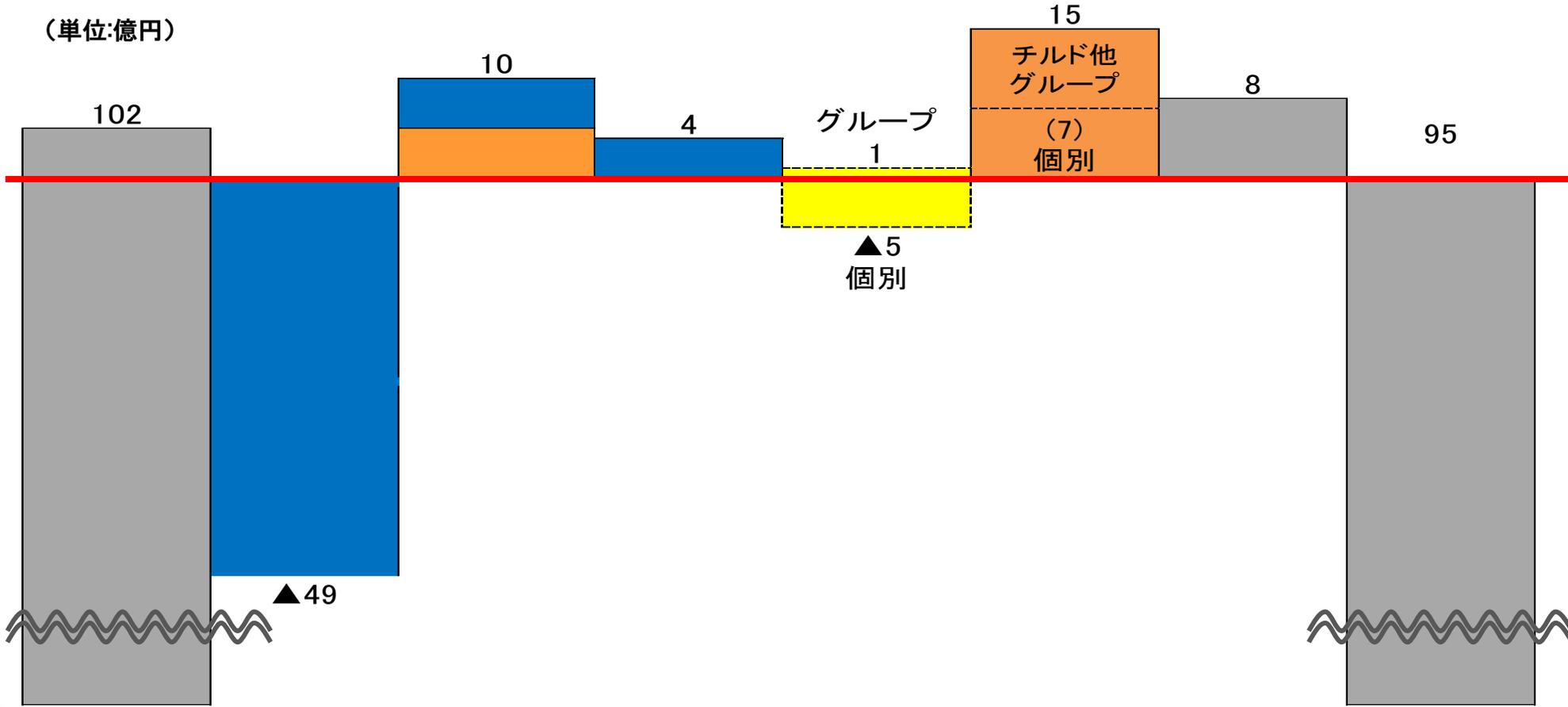
【ファイン事業】 減収・減益

ニッセイ個別は、後発医薬品使用促進策による医薬原料の販売数量減少が続く。
グループは、臨床診断薬、産業検査薬などで販売が堅調。

主な営業利益増減要因

■ 水産 ■ 食品 ■ ファイン

(単位:億円)



(主な増減要因)

2015年3月期 第2四半期 営業利益	海外		国内			連結調整 の増加	2016年3月期 第2四半期 営業利益
	<南米> 鮭鱒の販売価格下落と在池魚評価損の拡大等	<北米> 冷凍食品事業順調、すりみの販売数量増加等	<個別/水産> すりみ・魚粉の販売価格が堅調	<ファイン> 後発品使用促進策による販売数量減少等	<食品> ニッスイ個別は家庭用・業務用冷凍食品が好調、チルド事業も順調		

セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,035 (27)	307 (104)	107 (▲12)	45 (▲35)	241 (9)	1,736 (92)	▲399 (▲57)	1,337 (34)
	1,008	203	119	81	231	1,644	▲341	1,302
食品事業	1,643 (74)	351 (72)		39 (12)	111 (15)	2,145 (174)	▲574 (▲47)	1,571 (127)
	1,569	278		27	95	1,971	▲526	1,444
ファイン事業	136 (1)			1 (0)		138 (1)	▲11 (▲2)	127 (▲1)
	135			1		136	▲8	128
物流事業	137 (21)					137 (21)	▲61 (▲17)	75 (3)
	115					115	▲44	71
その他事業	145 (45)			0 (0)		146 (45)	▲43 (▲17)	103 (28)
	100			0		101	▲25	75
仮計	3,098 (169)	658 (176)	107 (▲12)	87 (▲23)	353 (25)	4,304 (335)		
	2,929	481	119	110	327	3,969		
連結調整	▲809 (▲89)	▲137 (▲43)	▲78 (▲1)	▲58 (▲6)	▲5 (▲1)		▲1,089 (▲142)	
	▲720	▲93	▲76	▲52	▲3		▲947	
連結計	2,289 (80)	521 (133)	28 (▲14)	28 (▲29)	347 (23)			3,215 (192)
	2,209	387	42	57	324			3,022

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※連結除外会社の影響額 ▲14億円 (PESANTAR)

※新規連結会社の影響額 + 12億円 (CAP OCEAN 他)

※為替換算による売上高への影響額(試算) 135億円

セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計
水産事業	15 (4)	8 (5)	▲21 (▲49)	0 (▲2)	4 (▲0)		7 (▲41)	2 (11)	10 (▲30)
	10	2	27	2	4		48	▲8	40
食品事業	38 (15)	10 (4)		5 (5)	10 (0)		64 (26)	▲1 (▲1)	62 (25)
	22	6		▲0	9		38	▲0	37
ファイン事業	21 (▲4)			0 (0)			22 (▲4)	0 (▲0)	22 (▲4)
	26			0			26	0	26
物流事業	9 (1)						9 (1)	▲0 (▲0)	9 (0)
	8						8	0	8
その他事業	4 (1)			▲0 (▲0)			4 (1)	▲0 (▲1)	4 (0)
	3			0			3	0	3
全社経費						▲13 (1)	▲13 (1)	0 (0)	▲12 (1)
						▲14	▲14	0	▲14
仮計	90 (19)	19 (10)	▲21 (▲49)	5 (3)	14 (0)	▲13 (1)	95 (▲15)		
	71	9	27	2	14	▲14	110		
連結調整	▲2 (▲3)	1 (1)	3 (8)	▲0 (▲0)	▲1 (1)	0 (▲0)		0 (8)	
	0	▲0	▲5	▲0	▲3	0		▲8	
連結計	88 (15)	20 (11)	▲18 (▲40)	4 (2)	13 (2)	▲13 (1)			95 (▲6)
	72	8	22	1	11	▲14			102

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。

※連結除外会社の影響額 ▲2億円(PESANTAR 他)

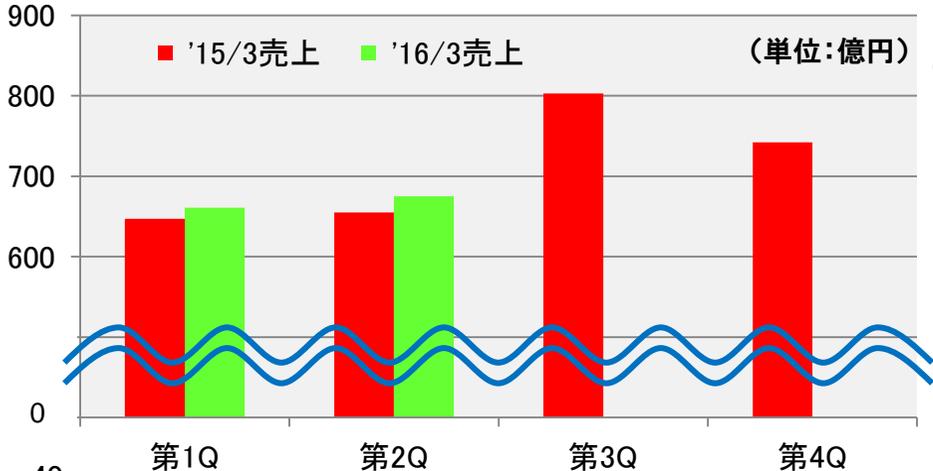
※新規連結会社の影響額 0億円(CAP OCEAN 他)

◆南米の鮭鱒養殖事業で販売価格下落に加え、在池魚評価損も拡大

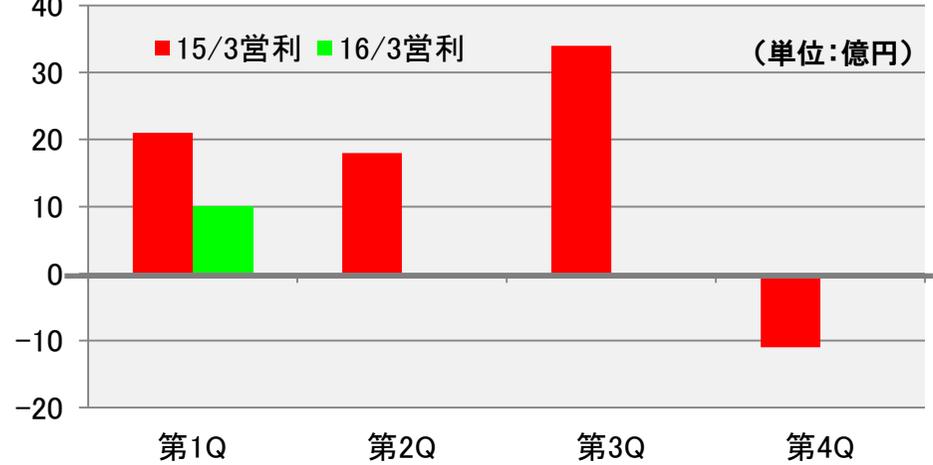
(単位:億円)	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	対前年同期比 増減額/率		2016年3月期 期初計画(年間)	期初計画に 対する進捗率
売上高	1,337	1,302	34	102.7%	2,726	49.1%
営業利益	10	40	▲ 30	25.2%	60	16.8%
営業利益率	0.8%	3.1%	-	-	2.2%	-

春頃:流し網漁で漁獲された高価な紅鮭
 (夏以降:定置網漁で漁獲された紅鮭)

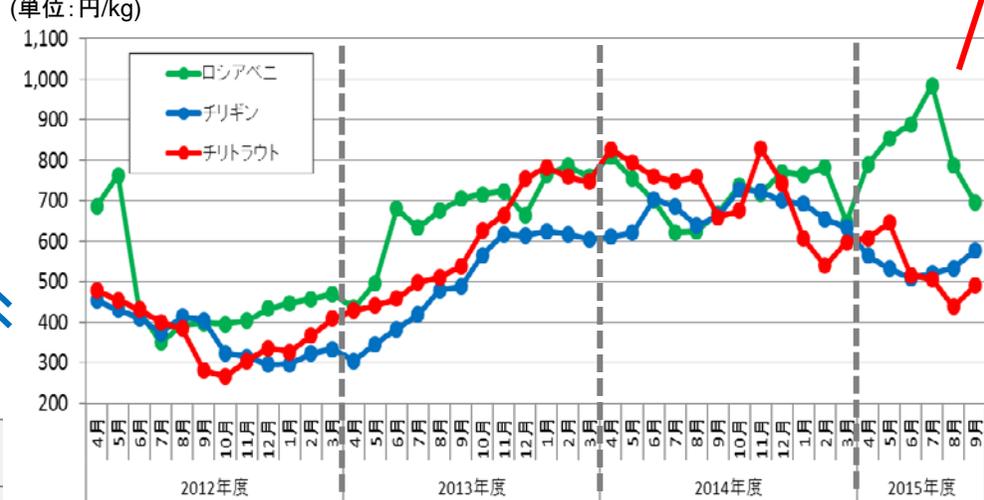
売上高



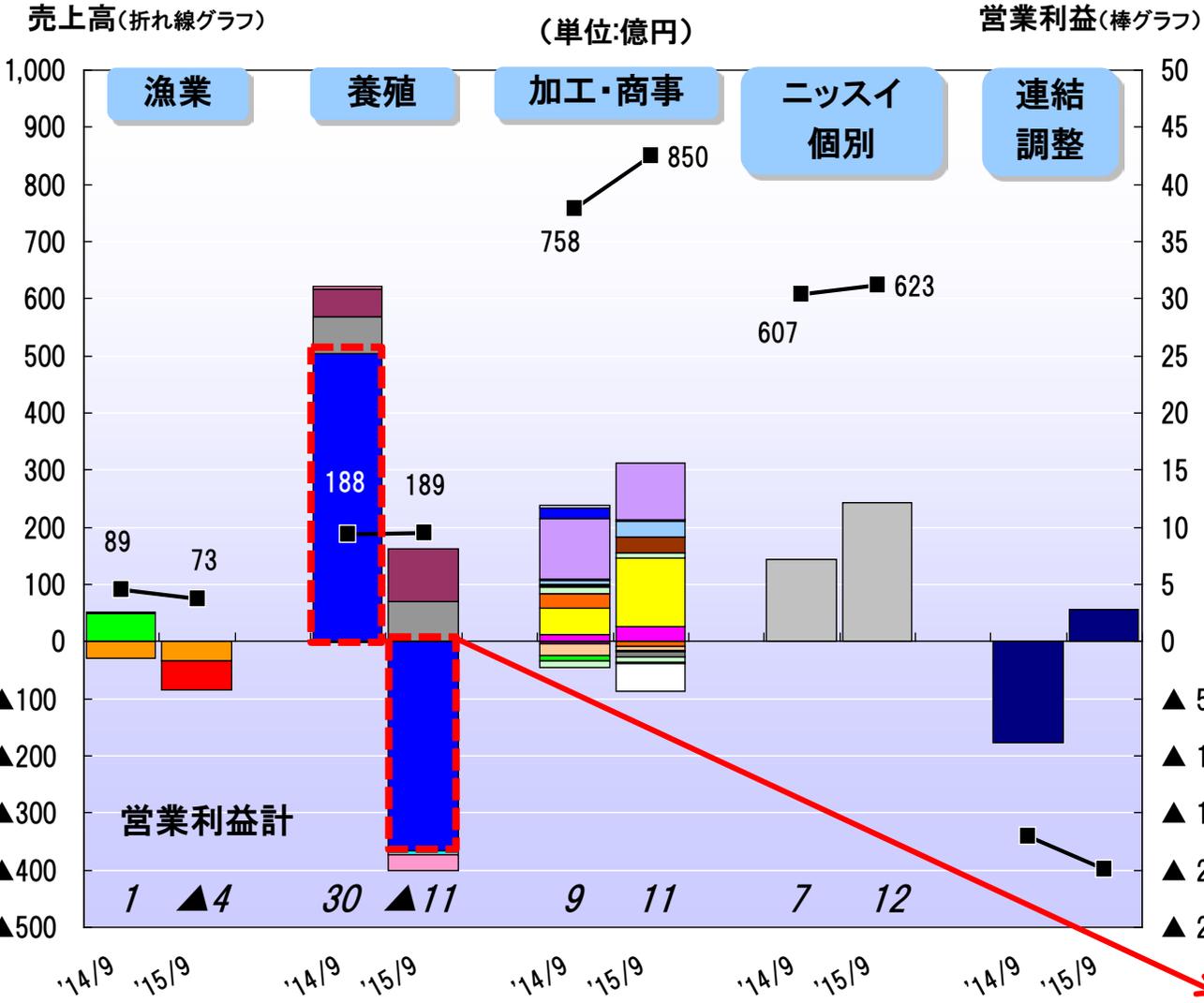
営業利益



<国内水産物市況 鮭鱒 (財務省貿易統計より算出)>



水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)



主な増減要因

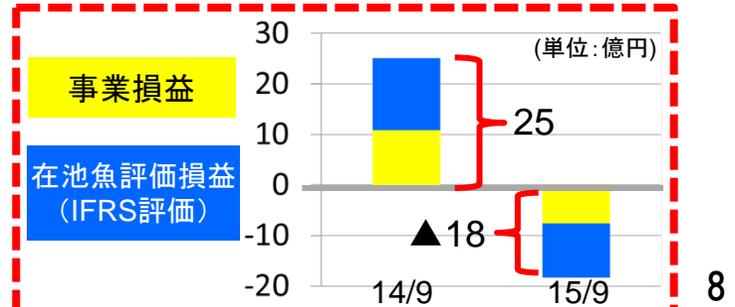
【漁業】
・南米:ほき、南だらの漁獲が低調に推移し、販売数量減少

【養殖】
・国内養殖事業
ぶり:「若ぶり」販売数量大幅増加するも、飼料高騰による生産コスト上昇
まぐろ:販売数量減少するも、販売価格は堅調に推移
あじ:原料買付加工品のあじ原料価格が低下したこともあり、好調に推移

・チリの鮭鱒養殖事業
飼料高騰や魚病の影響とともに、販売価格が下落し、在池魚評価損が拡大

【加工・商事】
・アメリカのすけそうだら事業
すりみの増産に加え、販売価格も上昇
・欧州:販売伸長するも、ユーロ安の影響による仕入価格上昇

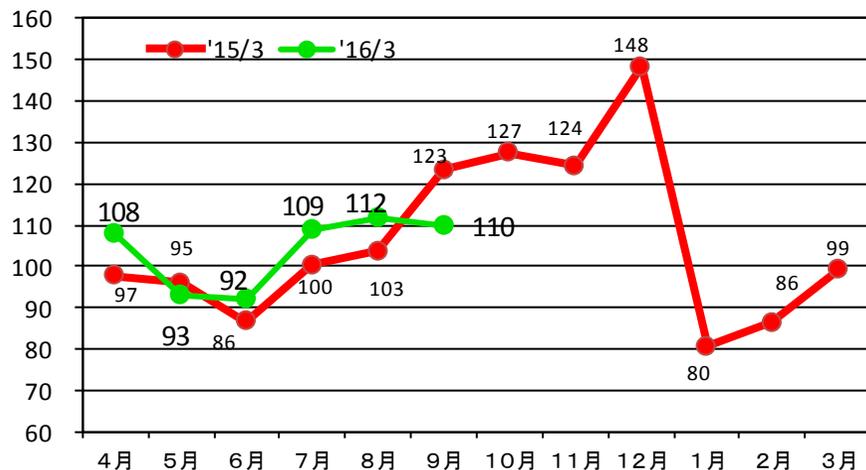
【ニッセイ個別】
・鮭鱒の販売価格が下げ止まったことに加え、すりみ・魚粉の販売価格は堅調さを維持



※漁業、養殖、加工・商事のグラフは連結子会社の合計を記載
 ※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値
 ※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

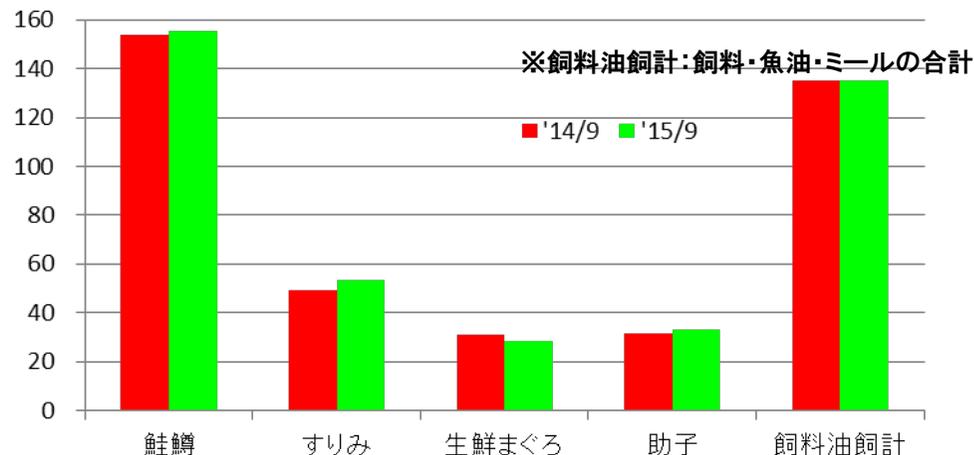
<売上高(月別)>

(単位:億円)



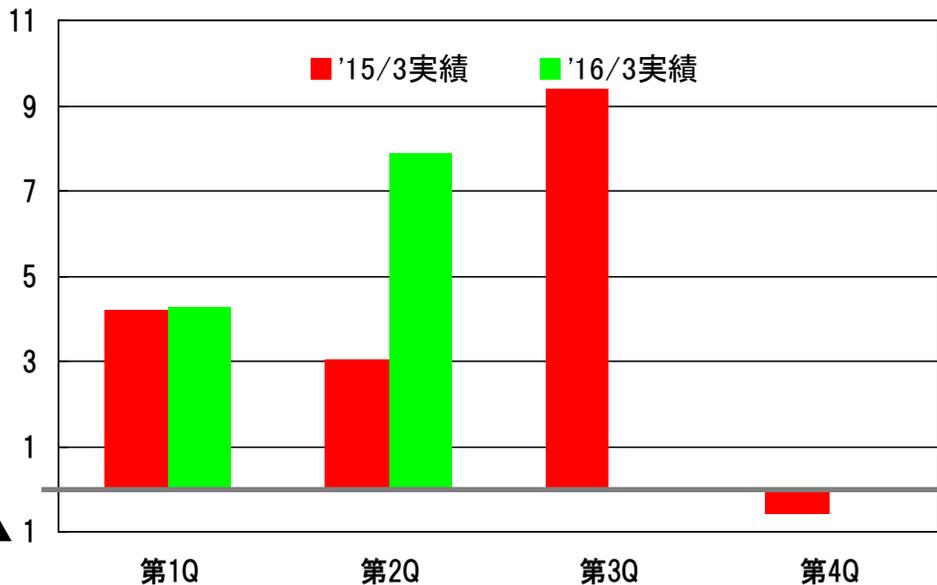
<主要魚種別 売上高(前年同期比)>

(単位:億円)



<営業利益(四半期別)>

(単位:億円)



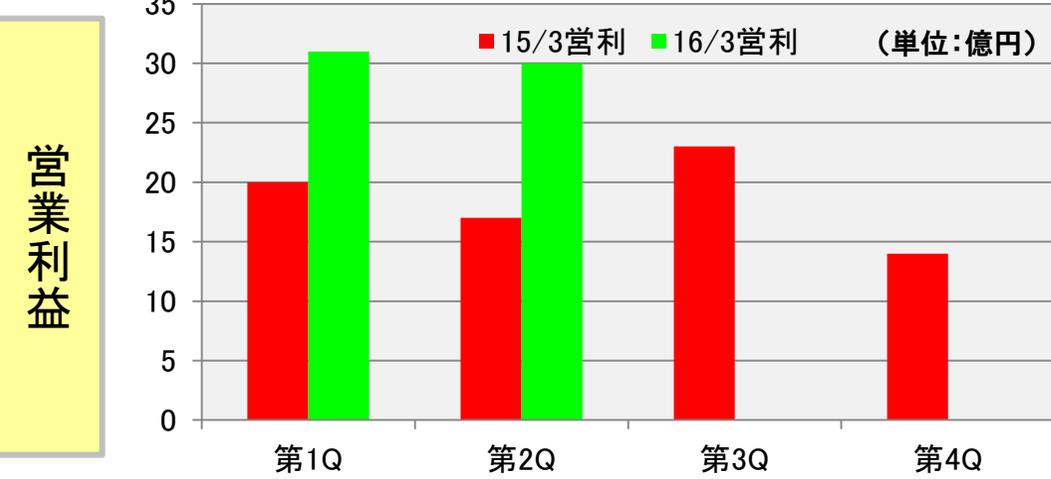
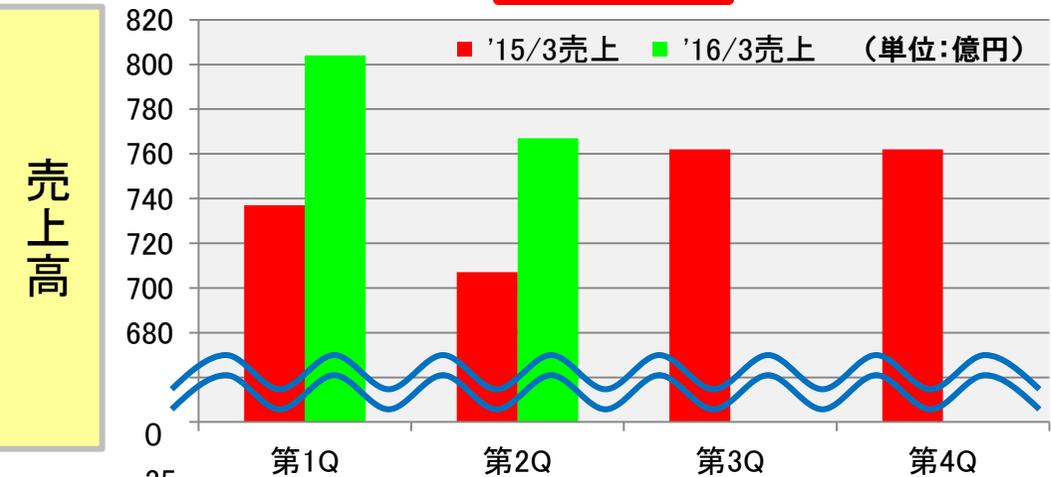
<魚粉価格動向(財務省貿易統計より算出)>

(単位:円/t)



◆北米・欧州は順調に推移し、日本はニッスイ個別・グループともに売上・利益が伸長

(単位: 億円)	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	対前年同期比 増減額/率		2016年3月期 期初計画(年間)	期初計画に 対する進捗率
売上高	1,571	1,444	127	108.8%	2,995	52.5%
営業利益	62	37	25	166.1%	68	92.5%
営業利益率	4.0%	2.6%	-	-	2.3%	-



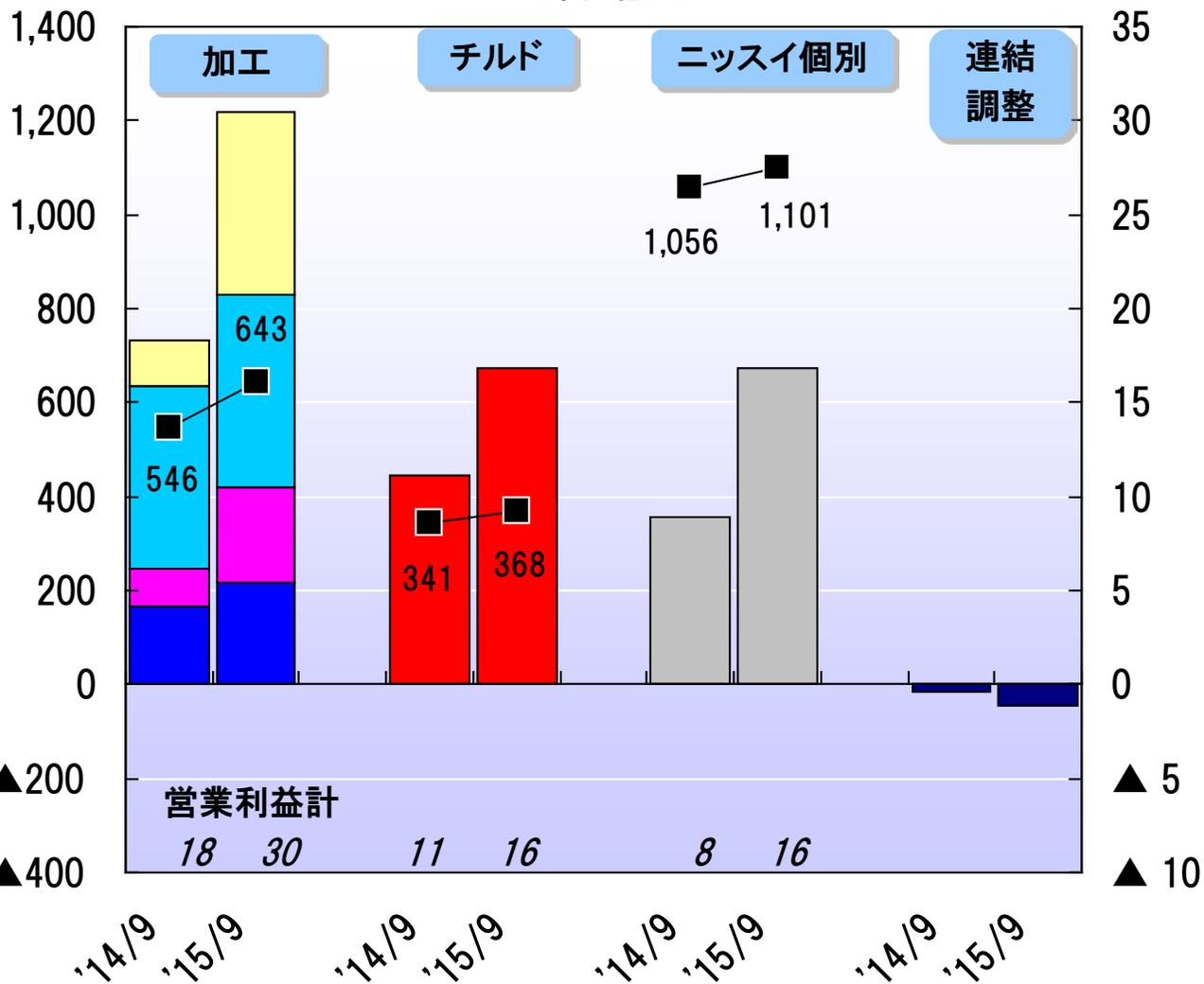
食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)



売上高(折れ線グラフ)

(単位:億円)

営業利益(棒グラフ)



主な増減要因

【加工】

- ・北米
工場集約などにより収支改善
原料のえびの価格が下がったことに加え、大手レストランチェーン向けの販売が好調
- ・ヨーロッパ
新たに生産ラインを増強するとともに、販売単価の高いチルド製品の販売数量が増加
- ・日本
えび、白身魚の業務用食品加工事業において、原料のえびの価格が下がったこともあり、好調に推移

【チルド】

- ・チルド弁当、サラダ等の販売伸長
- ・生産工程の見直しによる生産性の向上

【ニッスイ個別】

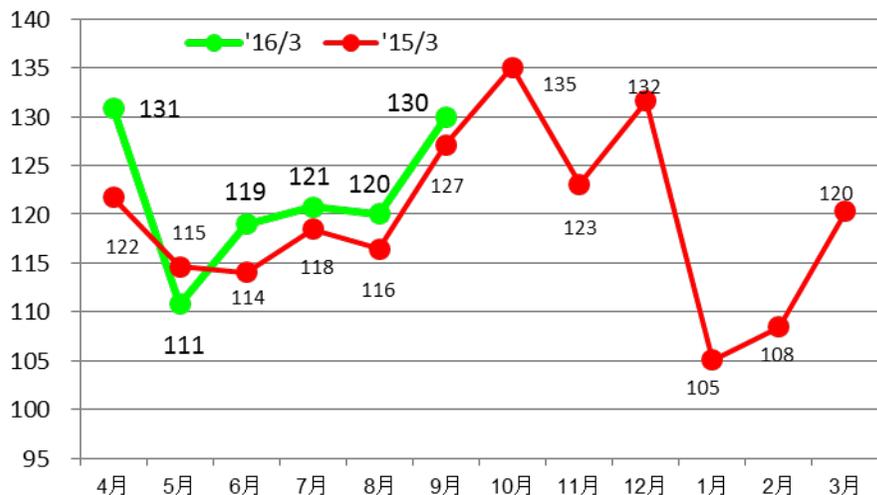
- ・価格改定やコストダウンなどに努め、家庭用、業務用冷凍食品を中心に好調

※加工、チルドのグラフは連結子会社の合計を記載
 ※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値
 ※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる



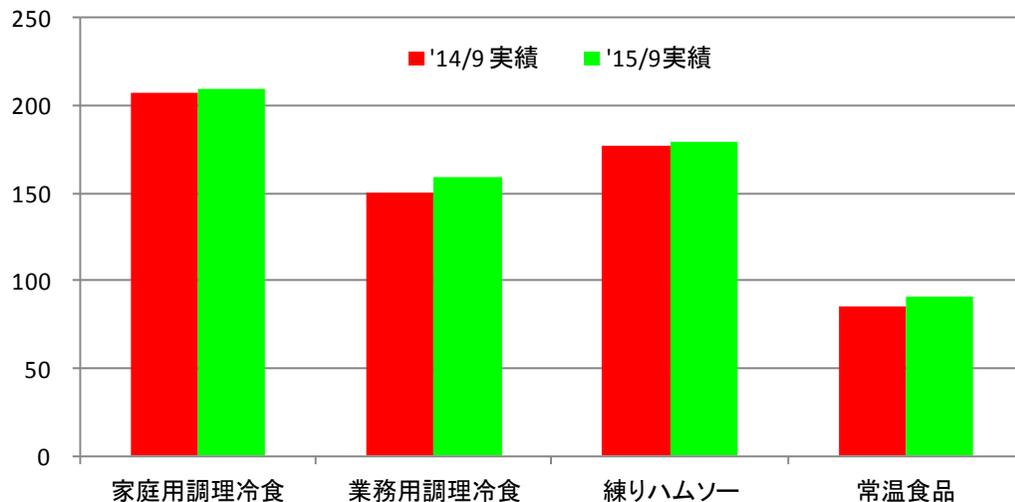
<売上高(月別)>

(単位:億円)



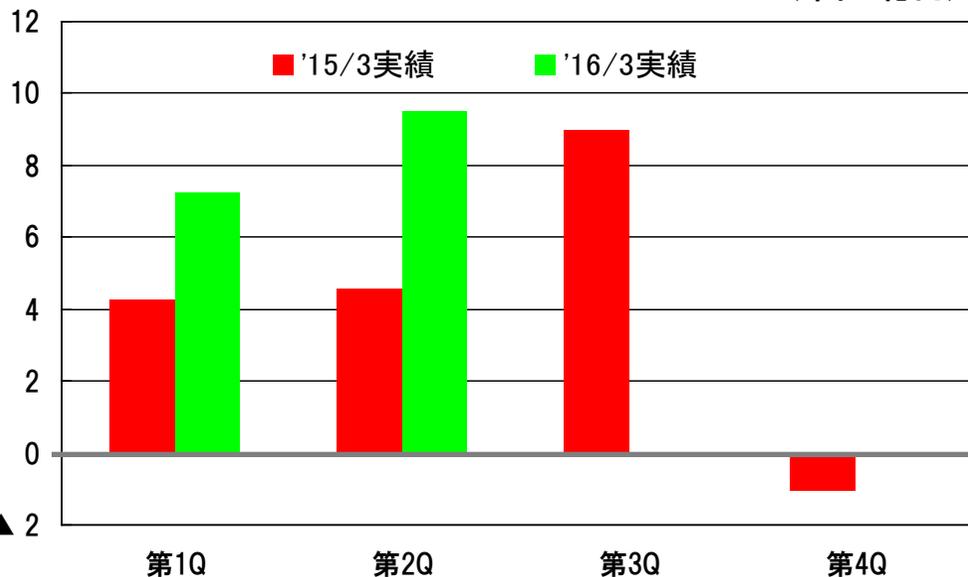
<カテゴリ別 売上高(前年同期比)>

(単位:億円)



<営業利益(四半期別)>

(単位:億円)



<冷凍すりみ輸入価格推移 (財務省貿易統計より算出)>

(単位:円/kg)



◆後発品使用促進策等の影響により、前年からの苦戦が続く

(単位: 億円)	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	対前年同期比 増減額/率		2016年3月期 期初計画(年間)	期初計画に 対する進捗率
売上高	127	128	▲ 1	98.8%	280	45.4%
営業利益	22	26	▲ 4	84.0%	44	50.7%
営業利益率	17.6%	20.7%	-	-	15.7%	-

主な増減要因

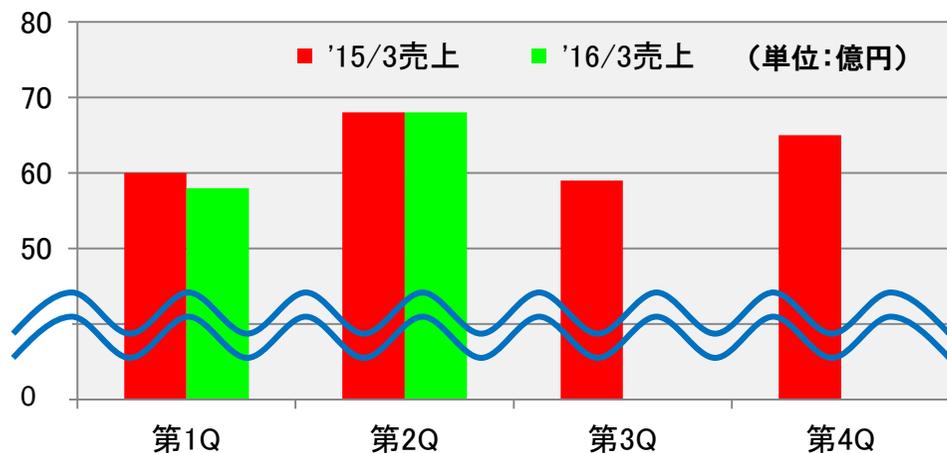
【ニッセイ個別】

- ・医薬原料
後発品使用促進策などによる販売数量の減少

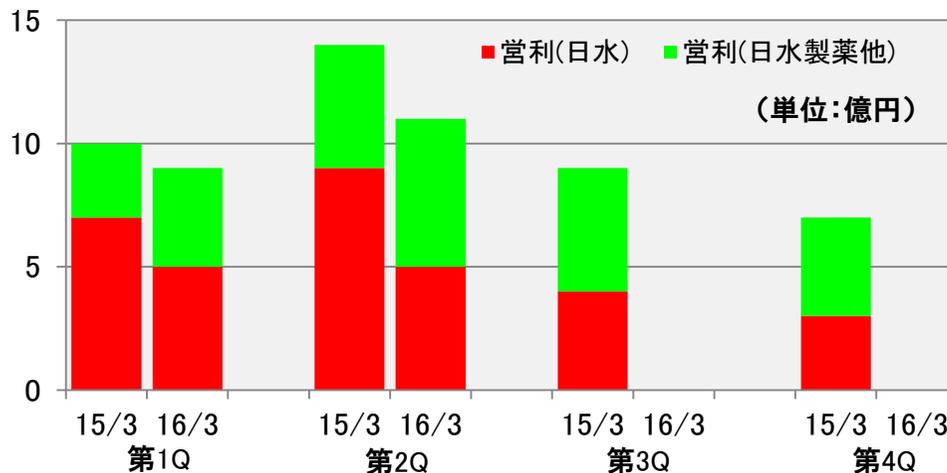
【グループ】

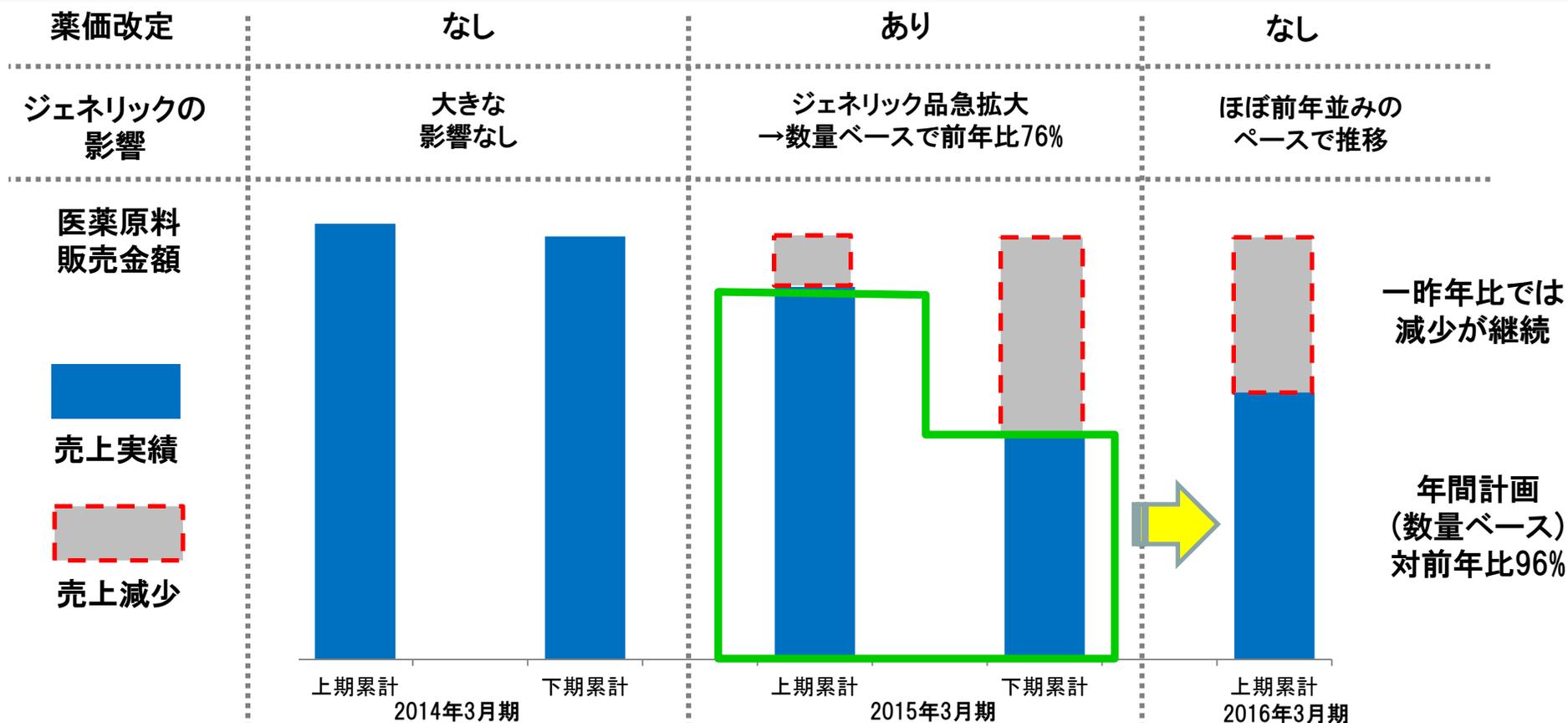
- ・臨床診断薬、産業検査薬などで販売堅調

売上高



営業利益





<医薬原料:前年同期比 ▲約7億円減益>
前年度のジェネリック品の伸長からシェア回復に苦戦

<機能性食品:前年同期比 約1.5億円増益>
休眠顧客呼び戻し(DM)実施、広告宣伝媒体の見直し

<機能性原料:前年同期比 約1億円増益>
EPA・DHAの原料販売増加(機能性表示食品等)
売上高は対前年同期比で約130%

<研究開発費:前年同期比 約2億円増加>
将来の成長に向けた研究開発費の投入

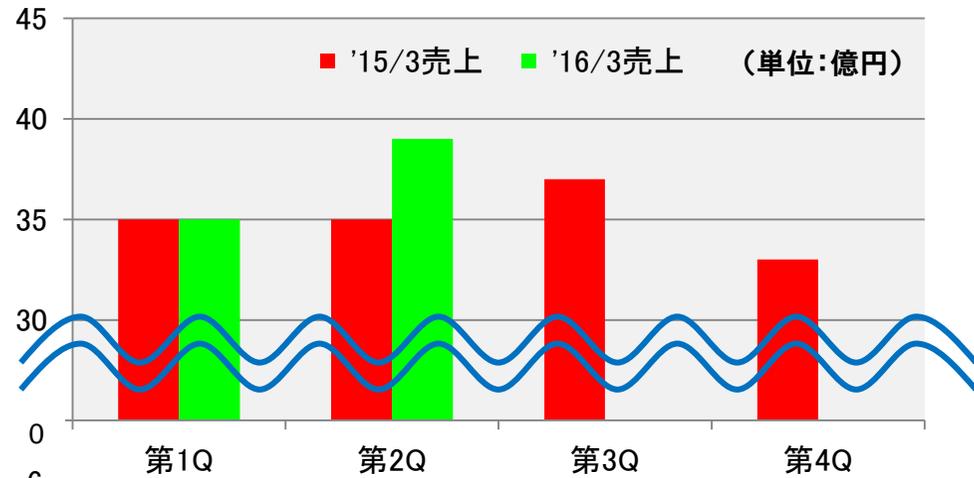
◆前年同期比でほぼ横ばいで推移

(単位: 億円)	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	対前年同期比 増減額/率		2016年3月期 期初計画(年間)	期初計画に 対する進捗率
売上高	75	71	3	105.5%	152	49.7%
営業利益	9	8	0	107.0%	17	53.9%
営業利益率	12.1%	12.0%	-	-	11.2%	-

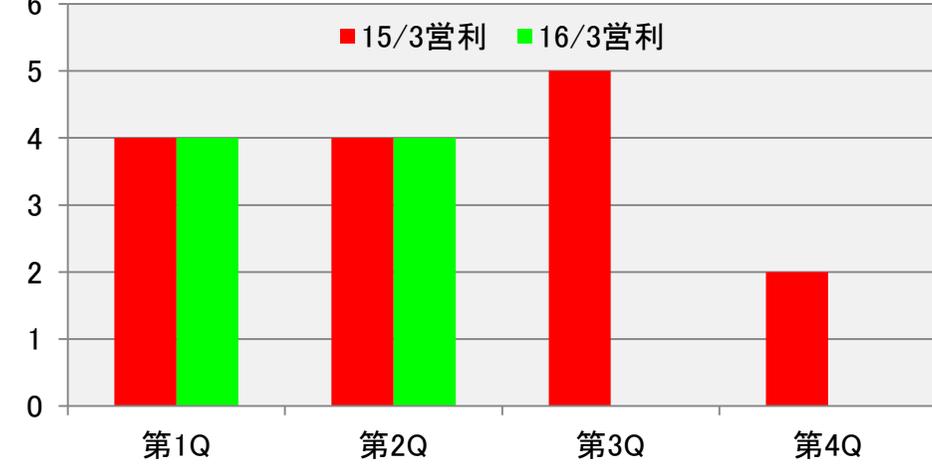
主な増減要因

- ・配送事業: 運送貨物の取扱量減少
- ・冷蔵倉庫事業: 保管料収入増加

売上高



営業利益



日水物流・大阪舞洲物流センター竣工予定図

連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)

	2016年3月期 第2四半期実績	売上高比 (%)	2015年3月期 第2四半期実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	3,215		3,022		192	6.4
売上総利益	670	20.8	648	21.4	21	3.4
販売費・一般管理費	574		545		28	
営業利益	95	3.0	102	3.4	▲6	▲6.4
営業外収益	32		29		2	
営業外費用	19		17		1	
経常利益	109	3.4	115	3.8	▲5	▲5.1
特別利益	14		3		11	
特別損失	5		12		▲6	
税金等調整前四半期純利益	118	3.7	106	3.5	11	11.0
法人税等	33		27		6	
法人税等調整額	10		14		▲4	
四半期純利益	74		64		9	
非支配株主に帰属する四半期純利益	6		5		0	
親会社株主に帰属する四半期純利益	67	2.1	58	2.0	8	15.2

主な増減要因

【営業外収益・費用】

持分法による
 投資利益 約3億円増加
 助成金収入 約4億円増加
 為替差益 約5億円減少 等

主な内訳

【特別利益・損失】

2016年3月期(当期)
 - 投資有価証券売却益 約14億円
 - 土地減損損失 約3億円

2015年3月期(前期)
 - 急激な環境変化による養殖
 まぐろの斃死による損失 約8億円

連結貸借対照表(前期末比)



流動資産 2,350 (+33)	流動負債 2,163 (+39)
	固定負債 1,419 (▲7)
固定資産 2,279 (+3)	純資産 1,046 (+4)
総資産 4,630 (+37)	うち自己資本 861 (+8) <i>自己資本比率 18.6%</i>

(単位:億円)

主な増減要因					
資産	+37	流動資産	+33	受取手形及び売掛金 仕掛品	+24 +10
		固定資産	+3	有形固定資産 無形固定資産 投資その他の資産	+27 ▲5 ▲18
負債	+32	流動負債	+39	支払手形及び買掛金 未払費用	+48 ▲3
		固定負債	▲7	長期借入金 繰延税金負債	▲1 ▲9
		純資産	+4	利益剰余金 その他有価証券評価差額金 繰延ヘッジ損益 為替換算調整勘定 退職給付に係る調整累計額 非支配株主持分	+67 ▲23 ▲8 ▲22 ▲5 ▲3
自己資本比率		'15/3	18.6%	→	'15/9 18.6%

()内の数字は前期末比増減

連結キャッシュフロー(前年同期比)



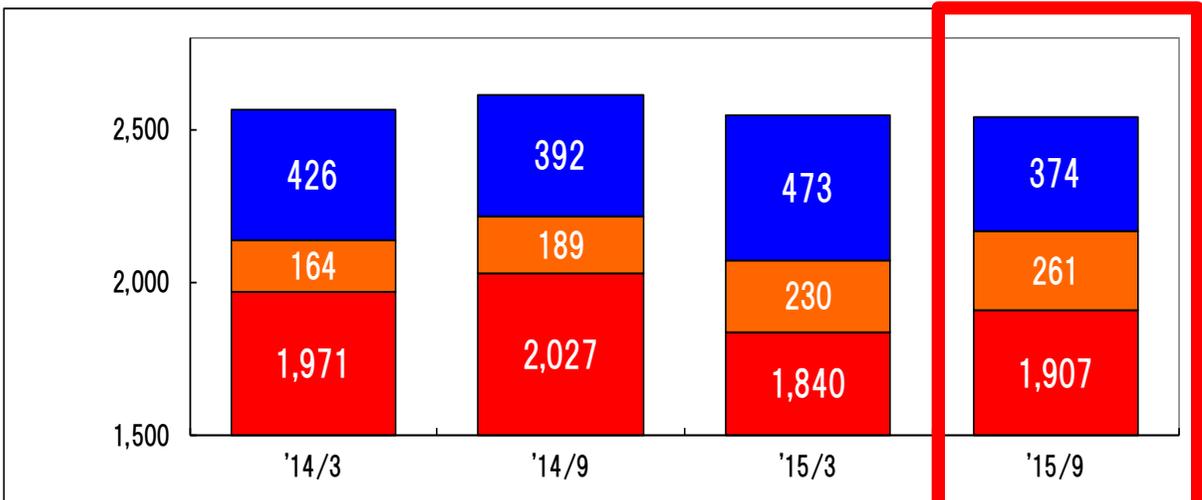
(単位: 億円)

	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	増減
・ 税金等調整前四半期純利益	118	106	11
・ 減価償却費 (のれん償却含む)	83	81	1
・ 運転資本	▲ 22	▲ 147	125
・ 法人税等の支払額	▲ 19	▲ 31	12
・ その他	▲ 63	▲ 3	▲ 60
営業活動によるCF	96	5	91
・ 設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 93	▲ 61	▲ 31
・ その他	▲ 61	▲ 28	▲ 32
投資活動によるCF	▲ 154	▲ 90	▲ 64
・ 短期借入金の増減額	▲ 26	74	▲ 100
・ 長期借入金の増減額	29	▲ 13	43
・ その他	▲ 13	▲ 4	▲ 8
財務活動によるCF	▲ 9	56	▲ 66

連結借入金・純金利負担

(単位:億円)

- 海外関係会社
- 国内関係会社
- ニッサイ個別



前期末
比増減

▲99

+30

+66

借入金合計	2,561	2,608	2,543	2,542	▲1
短期借入金	1,278	1,364	1,399	1,399	+0
長期借入金	1,282	1,244	1,143	1,142	▲1
短期借入金平均利率	0.7%	0.7%	0.6%	0.6%	▲0.1%
長期借入金平均利率	1.4%	1.4%	1.3%	1.3%	▲0.0%
純金利負担	16.9	6.9	16.2	6.8	
対営業利益純金利負担率	12%	7%	9%	7%	
支払利息	32.7	14.7	30.3	13.6	
受取利息	4.7	1.8	3.9	1.6	
受取配当金	11.0	6.0	10.1	5.0	
為替レート(US\$1)	@105.39(12月末)	@101.36(6月末)	@120.55(12月末)	@122.45(6月末)	

※為替レート換算による影響額

前期末比 ▲2億円

前年同期比 +54億円

個別損益計算書(前年同期比)



(単位:億円)

	2016年3月期 第2四半期実績	売上高比 (%)	2015年3月期 第2四半期実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	1,794		1,736		58	3.4
売上総利益	344	19.2	336	19.4	8	2.5
販売費・一般管理費	317		318		▲0	
営業利益	27	1.5	18	1.1	8	47.6
営業外収益	12		15		▲3	
営業外費用	13		11		1	
経常利益	26	1.5	22	1.3	3	16.4
特別利益	14		0		13	
特別損失	3		2		0	
税引前当期純利益	37	2.1	20	1.2	16	80.5
法人税等	4		1		2	
法人税等調整額	5		7		▲1	
当期純利益	27	1.5	11	0.7	15	137.4

主な増減要因

【販売費・一般管理費】

販売費増加
管理費減少
広告宣伝費減少

約3億円
約1億円
約1億円

主な内訳

【特別利益・損失】

2016年3月期(当期)

- 投資有価証券売却益
- 減損損失

約14億円
約2億円



第2四半期決算は為替や国内の魚価が年初想定に比べ今のところ安定しており、全体では概ね順調に推移しておりますが、特に南米における鮭鱒の養殖事業の動向が不透明であり、年間の見通しについては変更していません。

(単位:億円)	2016年3月期 第2四半期実績		2016年3月期 上期公表値		進捗率	2016年3月期 年間公表値		進捗率
	売上高比		売上高比			売上高比		
売上高	3,215		3,130		102.7%	6,360		50.6%
営業利益	95	3.0%	75	2.4%	127.9%	170	2.7%	56.4%
経常利益	109	3.4%	83	2.7%	131.7%	185	2.9%	59.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	67	2.1%	45	1.4%	151.0%	105	1.7%	64.7%

主要在外会社の 為替換算レート	2016年3月期 第2四半期実績 (6月末レート)	2016年3月期 計画レート
米ドル	122.5円	120.0円
ユーロ	137.2円	146.0円
デンマーククローネ	18.4円	20.0円

◆水産事業は南米の鮭鱒養殖事業の動向が不透明なうえ、食品事業も円安や原料高の変動リスクもあり、年間の計画は変えない。

(単位:億円)

	2016年3月期 期初計画	2016年3月期 修正計画	対期初計画比 増減額/率(%)	
売上高	6,360	6,360	-	-
水産事業	2,726	2,694	▲ 31	98.9%
食品事業	2,995	3,019	24	100.8%
ファインケミカル事業	280	265	▲ 14	94.8%
物流事業	152	157	5	103.9%
その他	207	222	15	107.4%
営業利益	170	170	-	-
水産事業	60	28	▲ 31	48.0%
食品事業	68	95	27	140.1%
ファインケミカル事業	44	45	1	102.6%
物流事業	17	18	1	107.8%
その他	5	7	2	152.8%
全社経費	▲ 24	▲ 25	▲ 1	105.0%
経常利益	185	185	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	105	105	-	-
EPS(1株当たり純利益)	38.01円	38.01円	-	-

セグメントマトリックス 年間修正計画売上高(対期初計画比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	2,104 (62)	556 (20)	225 (▲73)	84 (▲10)	488 (▲50)	3,458 (▲51)	▲764 (19)	2,694 (▲31)
	2,041	536	299	94	539	3,510	▲784	2,726
食品事業	3,163 (76)	644 (3)		65 (2)	222 (▲0)	4,095 (80)	▲1,076 (▲55)	3,019 (24)
	3,087	641		63	223	4,015	▲1,020	2,995
ファイン事業	284 (▲13)			2 (▲0)		287 (▲14)	▲21 (▲0)	265 (▲14)
	298			3		301	▲21	280
物流事業	272 (19)					272 (19)	▲114 (▲13)	157 (5)
	253					253	▲101	152
その他事業	326 (7)			1 (▲2)		328 (5)	▲105 (10)	222 (15)
	318			4		323	▲116	207
仮計	6,152 (152)	1,200 (23)	225 (▲73)	154 (▲11)	710 (▲51)	8,443 (39)		
	5,999	1,177	299	165	762	8,403		
連結調整	▲1,562 (▲83)	▲247 (▲10)	▲162 (46)	▲101 (3)	▲8 (3)		▲2,083 (▲39)	
	▲1,479	▲237	▲209	▲105	▲12		▲2,043	
連結計	4,589 (69)	952 (12)	63 (▲27)	52 (▲7)	702 (▲47)			6,360 (0)
	4,520	940	90	60	750			6,360

※上段は修正計画、下段は期初計画、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

セグメントマトリックス 年間修正計画営業利益(対期初計画比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計
水産事業	33 (6)	7 (▲0)	▲22 (▲39)	1 (1)	9 (▲1)		30 (▲34)	▲1 (3)	28 (▲31)
	27	8	17	0	10		64	▲4	60
食品事業	46 (9)	22 (5)		5 (4)	18 (4)		94 (24)	1 (2)	95 (27)
	37	17		1	14		69	▲1	68
ファイン事業	44 (0)			0 (0)			44 (0)	0 (0)	45 (1)
	43			0			44	▲0	44
物流事業	18 (1)						18 (1)	0 (0)	18 (1)
	17						17	▲0	17
その他事業	8 (2)			▲0 (▲0)			8 (2)	▲0 (0)	7 (2)
	6			▲0			6	▲1	5
全社経費						▲25 (▲0)	▲25 (▲0)	0 (▲0)	▲25 (▲1)
						▲24	▲24	0	▲24
仮計	151 (20)	30 (5)	▲22 (▲39)	7 (5)	28 (3)	▲25 (▲0)	170 (▲5)		
	131	25	17	2	24	▲24	176		
連結調整	0 (5)	▲0 (▲0)	1 (1)	▲0 (▲0)	▲2 (0)	0 (▲0)		▲0 (5)	
	▲5	0	0	▲0	▲2	0		▲6	
連結計	152 (26)	30 (4)	▲20 (▲38)	6 (4)	26 (4)	▲25 (▲1)			170 (0)
	126	26	18	2	22	▲24			170

※上段は修正計画、下段は期初計画、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。

セグメントマトリックス 下期修正計画売上高(対期初計画比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,068 (▲7)	249 (▲3)	118 (▲38)	38 (▲14)	246 (▲46)	1,722 (▲110)	▲364 (39)	1,357 (▲70)
	1,076	252	157	53	293	1,832	▲404	1,428
食品事業	1,520 (15)	292 (▲12)		26 (▲6)	111 (▲0)	1,949 (▲4)	▲502 (▲12)	1,447 (▲17)
	1,504	304		32	111	1,954	▲489	1,465
ファイン事業	147 (▲6)			1 (▲0)		149 (▲6)	▲10 (0)	138 (▲6)
	154			1		155	▲10	145
物流事業	135 (8)					135 (8)	▲53 (▲2)	82 (6)
	126					126	▲50	76
その他事業	180 (1)			0 (▲1)		181 (▲0)	▲62 (3)	118 (2)
	179			2		182	▲66	116
仮計	3,053 (11)	541 (▲15)	118 (▲38)	66 (▲23)	357 (▲47)	4,138 (▲113)		
	3,041	557	157	90	405	4,251		
連結調整	▲753 (▲9)	▲110 (▲4)	▲83 (29)	▲42 (7)	▲3 (5)		▲993 (28)	
	▲744	▲105	▲113	▲50	▲8		▲1,021	
連結計	2,299 (2)	431 (▲20)	34 (▲9)	24 (▲15)	354 (▲42)			3,144 (▲85)
	2,297	452	44	40	397			3,230

※上段は下期修正計画、下段は下期期初計画、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

セグメントマトリックス 下期修正計画営業利益(対期初計画比)



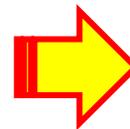
(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計
水産事業	17 (▲1)	▲0 (▲1)	▲0 (▲12)	1 (1)	5 (▲1)		22 (▲15)	▲4 (▲2)	18 (▲18)
	18	0	11	0	6		38	▲1	37
食品事業	8 (▲5)	12 (3)		0 (▲0)	8 (1)		29 (▲1)	3 (3)	32 (1)
	13	9		1	7		31	▲0	31
ファイン事業	22 (▲2)			0 (0)			22 (▲2)	▲0 (▲0)	22 (▲2)
	24			0			24	0	25
物流事業	8 (▲0)						8 (▲0)	0 (0)	9 (0)
	9						9	▲0	9
その他事業	3 (0)			▲0 (▲0)			3 (0)	▲0 (0)	3 (0)
	3			▲0			3	▲0	3
全社経費						▲12 (▲1)	▲12 (▲1)	▲0 (▲0)	▲12 (▲2)
						▲10	▲10	0	▲10
仮計	61 (▲9)	11 (2)	▲0 (▲12)	2 (0)	13 (▲0)	▲12 (▲1)	75 (▲22)		
	70	9	11	1	14	▲10	97		
連結調整	3 (4)	▲1 (▲0)	▲1 (▲2)	▲0 (0)	▲1 (0)	▲0 (▲0)		▲1 (1)	
	▲1	▲0	1	▲0	▲1	0		▲2	
連結計	64 (▲4)	10 (1)	▲2 (▲15)	1 (0)	12 (▲0)	▲12 (▲2)			74 (▲20)
	69	9	13	1	13	▲10			95

※上段は下期修正計画、下段は下期期初計画、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。

(単位:億円)	2016年3月期 第2四半期	2016年3月期 期初計画(年間)	期初計画に 対する進捗率
売上高	1,337	2,726	49.1%
営業利益	10	60	16.8%
営業利益率	0.8%	2.2%	-



2016年3月期 修正計画(年間)	修正計画に 対する進捗率
2,694	49.6%
28	35.1%
1.1%	-

<修正計画のポイント>

- ・南米の鮭鱒養殖事業
 期初計画では年末にかけて魚価が回復すると見込んでいたが、想定よりも回復が遅れており、営業損益、在池魚評価は、期初見込みよりも減益幅が拡大することを想定。
- ・国内は上期は想定よりも安定した魚価で推移するも、鮭鱒他市況動向注視して、調達から在庫コントロールまで管理を徹底し、利益確保に努める。

水産食材化の更なる推進



養殖事業の強化

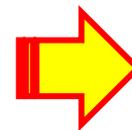


(単位:億円)

	2Q(累計)実績	下期見込	年間見込
営業利益(①+②)	▲ 18	▲ 4	▲ 22
営業損益(実現)①	▲ 7	▲ 10	▲ 18
期首戻入額	0	10	0
期末評価損益	▲ 10	▲ 4	▲ 4
在池魚評価損益②	▲ 10	5	▲ 4

- ・下期の営業損益(在池魚評価損益除く)は、上期から続く販売価格の下落の影響を受け、期初計画よりも悪化すると見込む。
- ・下期の在池魚評価損益については、期末に向けて魚価が多少回復すると想定し、期末評価損は上期より減少すると見込む。

(単位:億円)	2016年3月期 第2四半期	2016年3月期 期初計画(年間)	期初計画に 対する進捗率
売上高	1,571	2,995	52.5%
営業利益	62	68	92.5%
営業利益率	4.0%	2.3%	-



2016年3月期 修正計画(年間)	修正計画に 対する進捗率
3,019	52.1%
95	66.0%
3.2%	-

<修正計画のポイント>

・国内

上期は為替、すりみ原料価格ともに想定よりも安定していたが、下期はすりみの原料価格アップにより減益を見込む。

・海外

北米では業務用冷凍食品会社が期初見込みよりもレストランチェーン向けの販売が好調に推移することを想定。
欧州も上期の好調を維持し、増益拡大を想定。

付加価値商品の開発

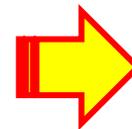


チルド事業の強化





(単位:億円)	2016年3月期 第2四半期	2016年3月期 期初計画(年間)	期初計画に 対する進捗率
売上高	127	280	45.4%
営業利益	22	44	50.7%
営業利益率	17.6%	15.7%	-



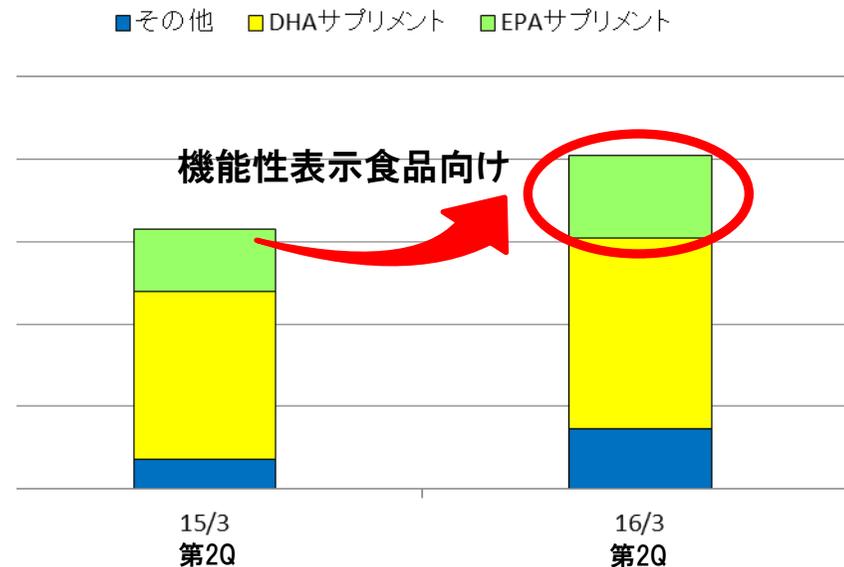
2016年3月期 修正計画(年間)	修正計画に 対する進捗率
265	47.8%
45	49.4%
17.0%	-

<修正計画のポイント>

- ・ニッスイ個別は、後発医薬品使用促進策による医薬原料の販売数量減少の影響があるものの、期初見込み並みで推移することを想定。
- ・機能性表示食品制度を活用した、他社への機能性原料の販売強化(BtoB)および自社ブランド「海から健康EPA lifeの展開(BtoC)

BtoBの取組:EPA・DHAの原料販売強化

第2四半期実績:売上高は対前年同期比で約130%



「海から健康 EPA life」ブランドの立ち上げ



EPA+(エププラス)、ファッション誌「sweet」・ファッションブランド「rich」とのトリプルコラボ品新発売



スポーツ向けにもEPAを展開



日本市場へのアクセス・輸入

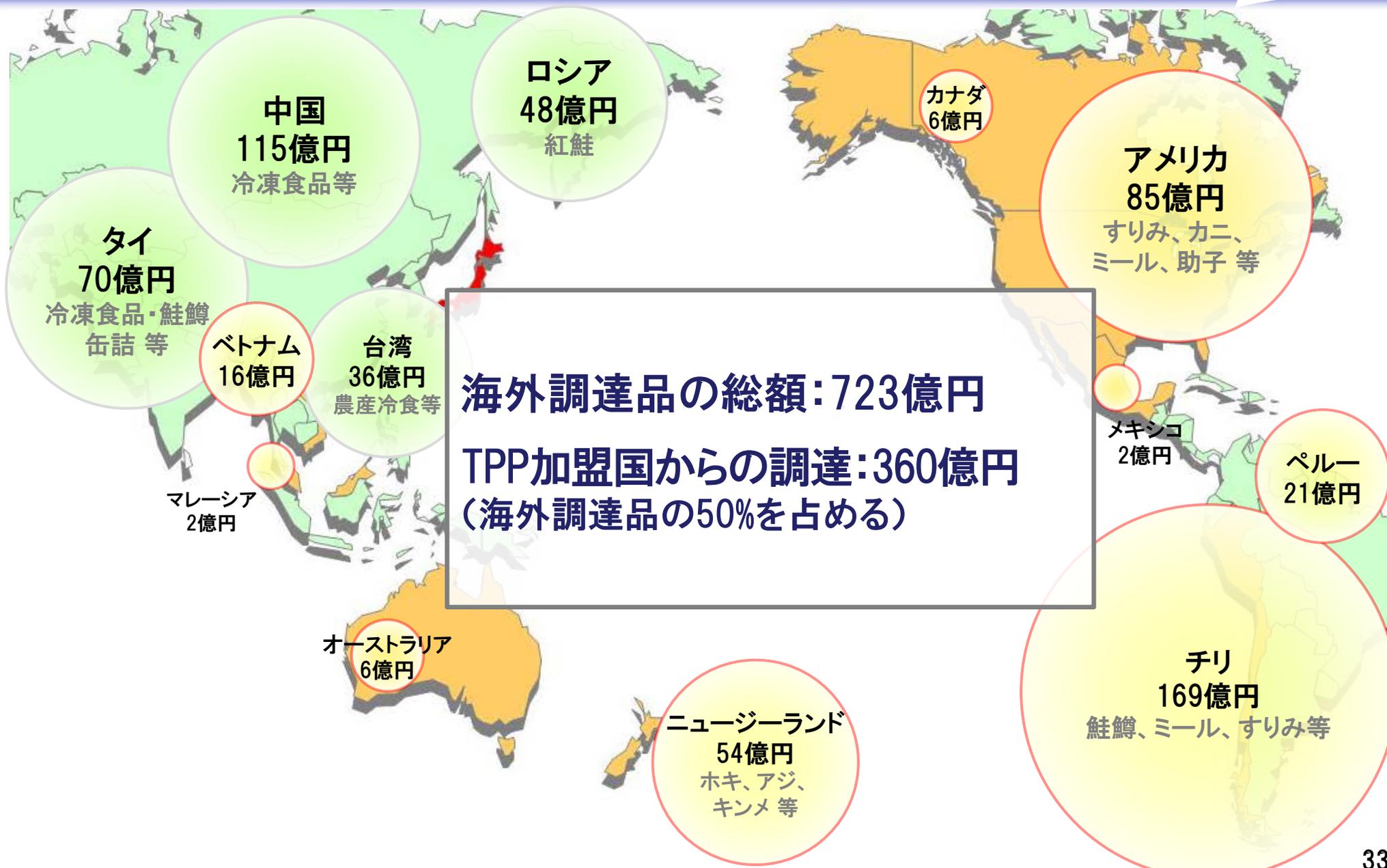
水産物

畜肉

種類	合意内容	
かつお、紅鮭、すけとうだら(すり身・卵)、まだら、ひらめ、かれい	3.5~6% ⇒ 無税	即時
まいわし、あかいか 等	3.5~6% ⇒ 無税	6年目撤廃
めばち、みなみまぐろ、太平洋くろまぐろ、ます、銀鮭、大西洋さけ、ぶり、するめいか 等	3.5~15% ⇒ 無税	11年目撤廃
あじ、さば	7~10% ⇒ 無税	16年目撤廃
魚油	7%又は4.2円/kg ⇒ 無税	即時

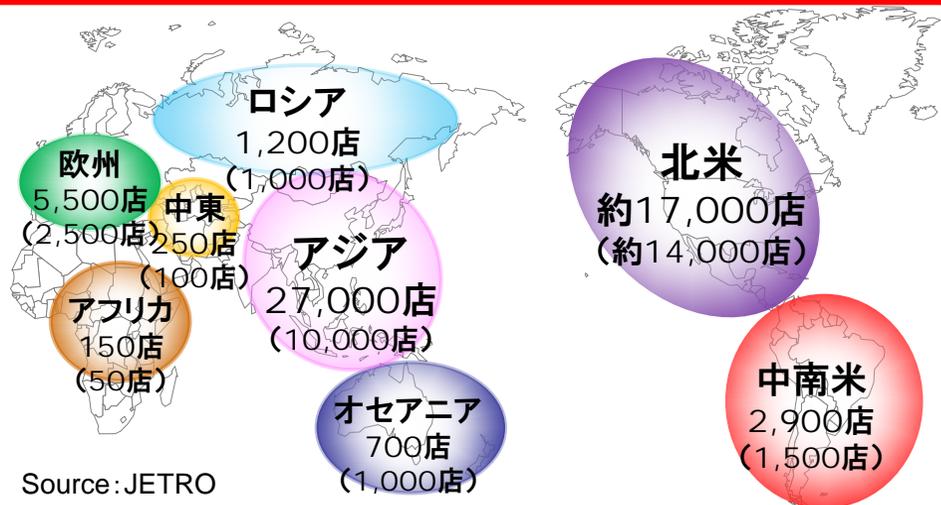
※ 上記内容は、TPP協定の合意内容であり、輸入相手国によっては、既に他の協定により関税が撤廃されているものもある

牛肉(生鮮・冷蔵・冷凍)	38.5% ⇒ 9%	段階的 16年目削減
豚肉、豚くず肉(生鮮・冷蔵・冷凍)	従価税:4.3% ⇒ 無税 従量税:482円/kg ⇒ 50円/kg (セーフガードあり)	段階的 10年目撤廃 もしくは削減
鶏肉(生鮮・冷蔵・冷凍)	8.5~11.5% ⇒ 無税	6~11年目撤廃



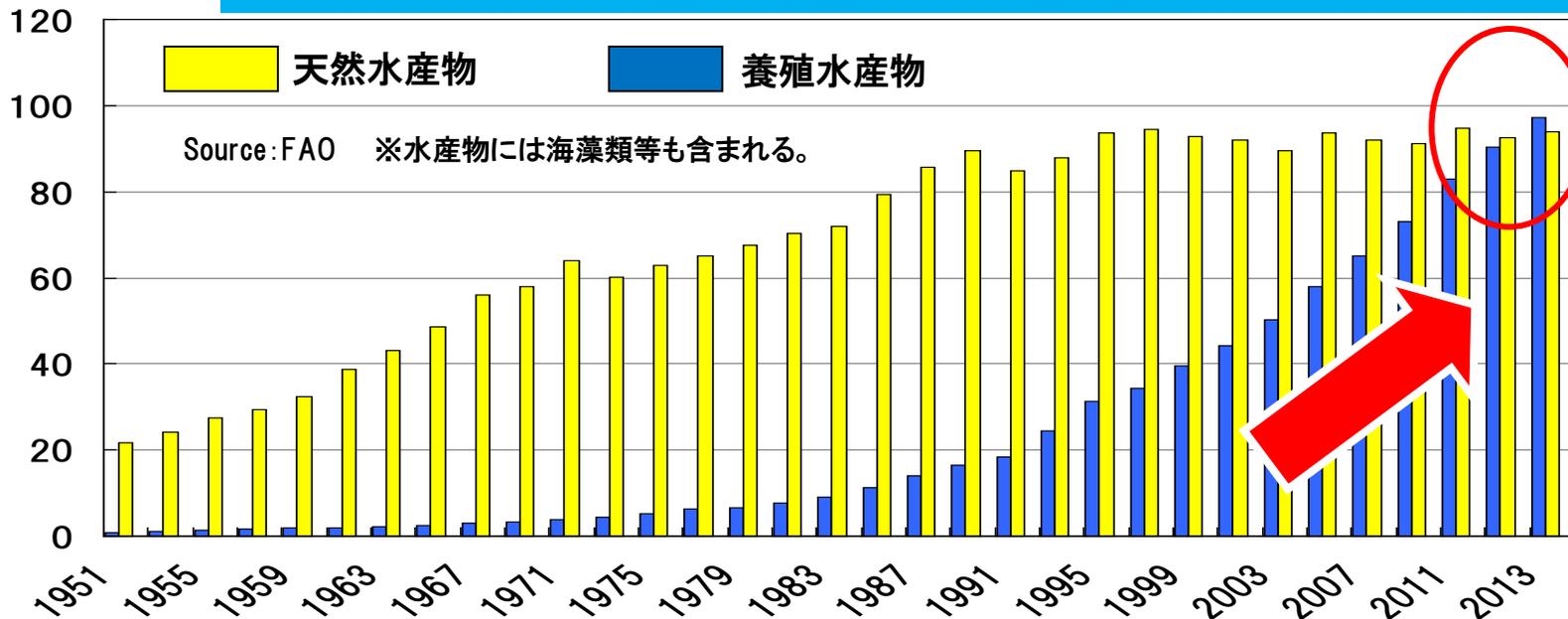
日本食レストラン店舗数の推移

2006年 約24,000店 → 2010年 約30,000店 → 2013年3月 約55,000店



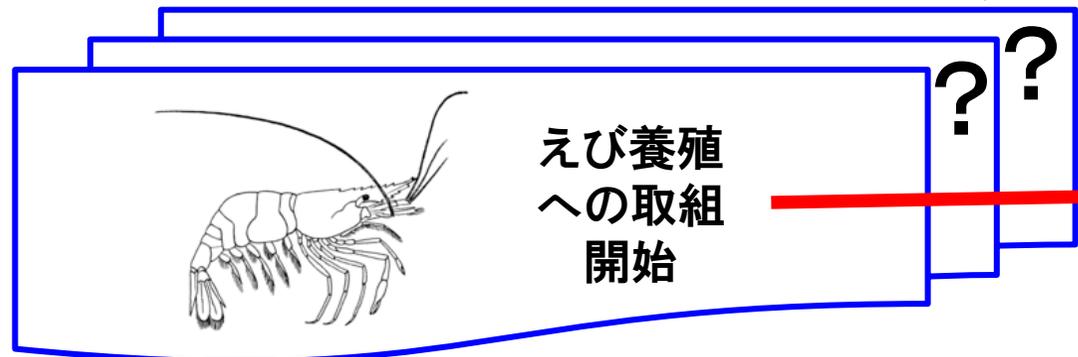
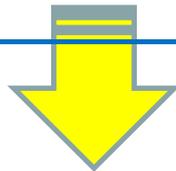
2013年の天然と養殖の比率: 天然 49% 養殖 51%
→ 初めて養殖が天然を上回る

(単位: 100万t)



和食のグローバル化
+
養殖生産の拡大

1988年	2004年	2006年	2013年	2014年
鮭鱒(トラウト)	ぶり	まぐろ	銀鮭	さば
			 	

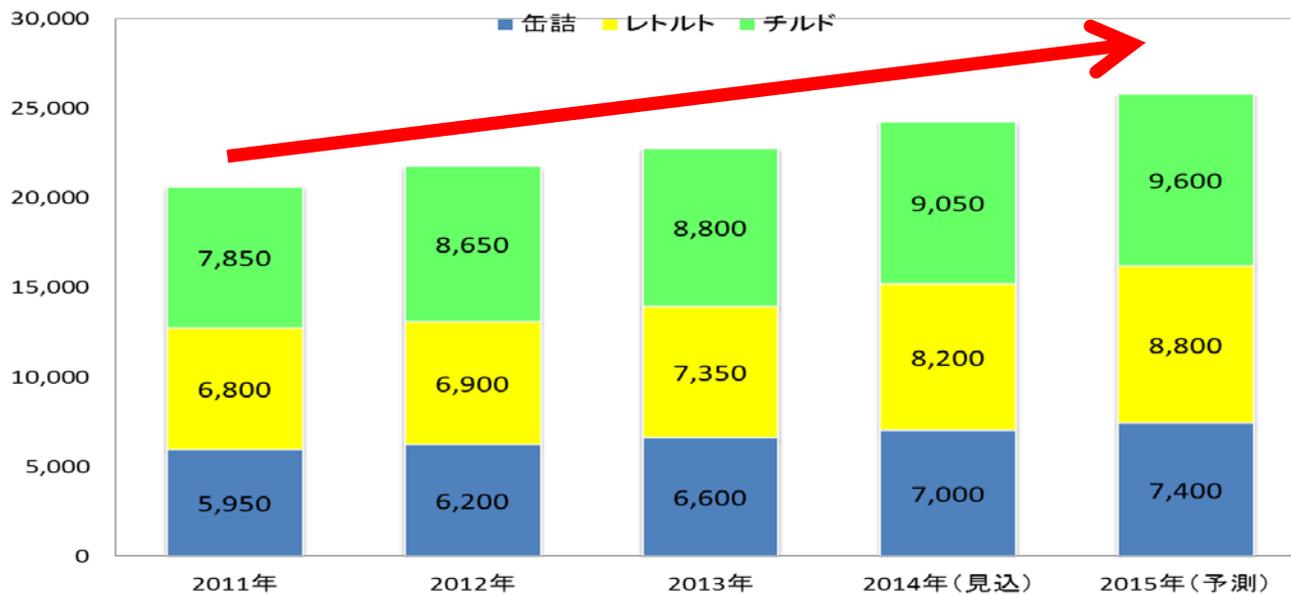


対象魚種の更なる拡大

調味料・水産エキスのビジネスの拡大

- 簡便、廉価なニーズを満たす「粉末・固形」調味料の市場は飽和傾向。
- スープ、ソース向けに、素材により近い食塩・糖類・化学調味料の無添加のエキス、ブイヨンの需要が高まっている。
- 「うまみ」の活用による減塩は、医療食を始めより注目されている。

缶詰、レトルト、チルドスープ市場
(即席スープ除く)



出典：富士経済

- 水産資源へのアクセス力を活用し、水揚げ産地で鮮度のよい原料から「素材の持つおいしさ」を抽出することを目指す。
- 素材の持つピュアな風味や旨みを重視し、無添加且つ最適な抽出及び濃縮をはかる。
- これらの味をニッスイ自社製品にも活用し、ニッスイならではの味づくりへも貢献する。 36



EPAのコア技術を
全事業に展開

水産事業



ファインケミカル
事業



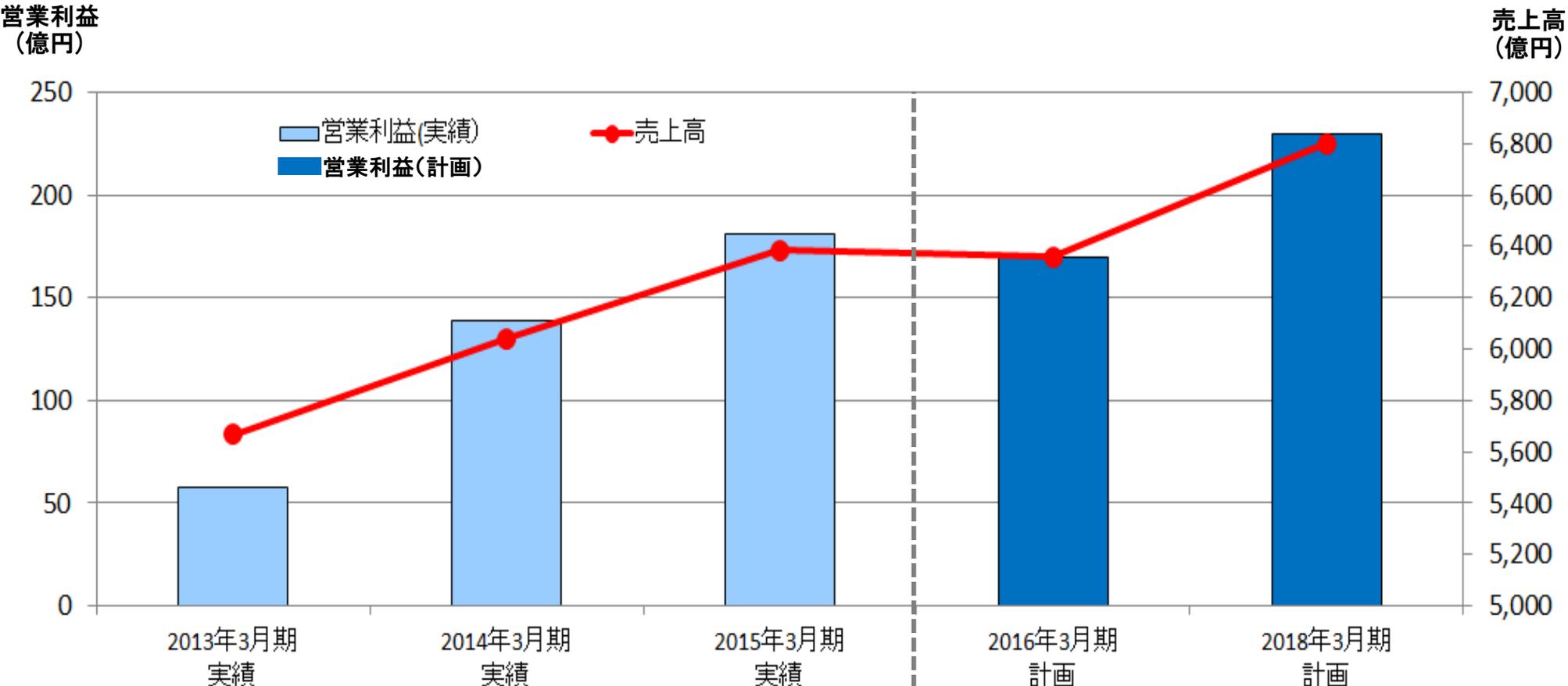
食品事業



(単位:億円)

中期経営計画MVIP2017:数値目標①

	2013年3月期 実績	2014年3月期 実績	2015年3月期 実績	2016年3月期		2018年3月期 計画
				上期実績	年間計画	
売上高	5,668	6,042	6,384	3,215	6,360	6,800
営業利益	58	139	181	95	170	230

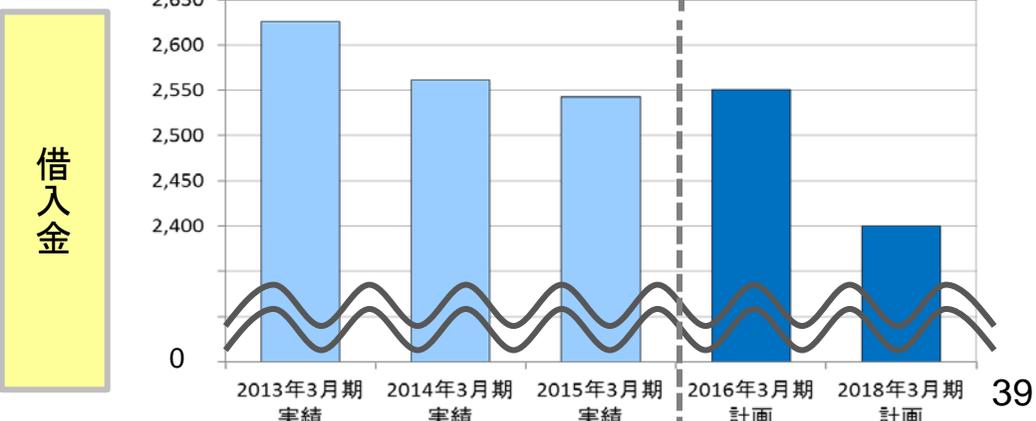
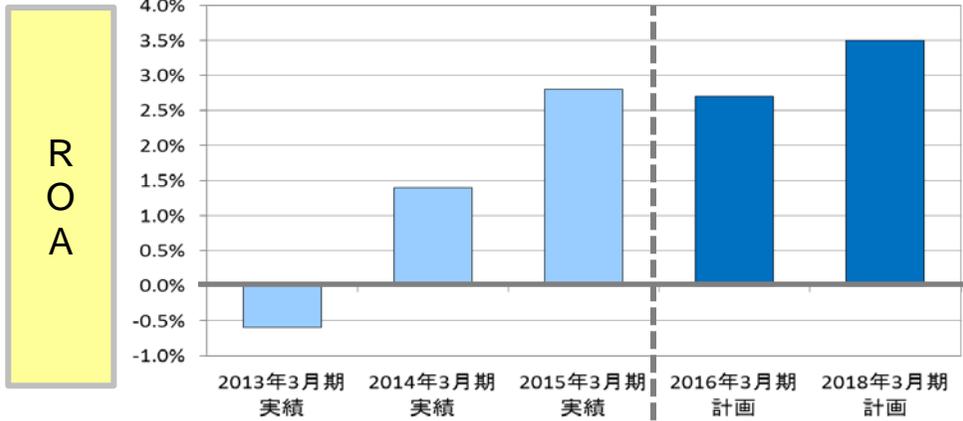
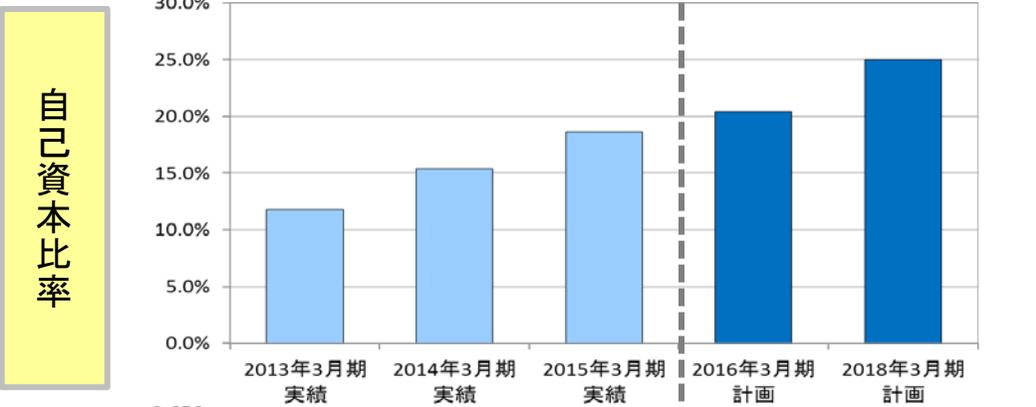
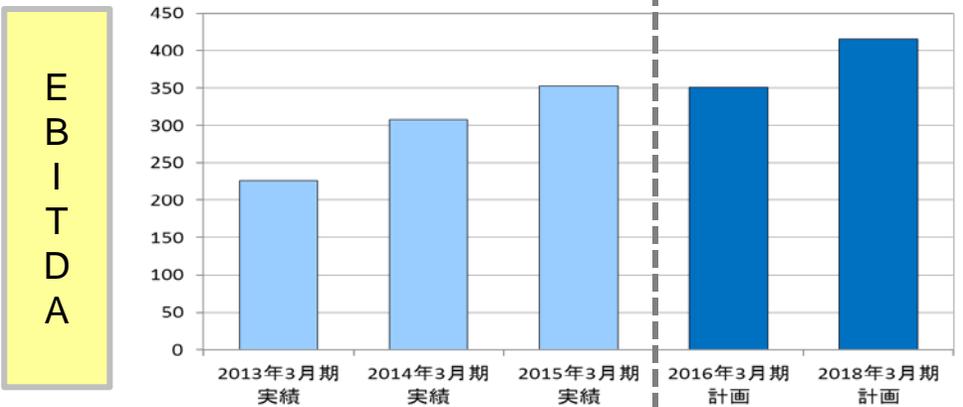


中期経営計画MVIP2017:数値目標②

(単位:億円,%)

	2013年3月期 実績	2014年3月期 実績	2015年3月期 実績	2016年3月期		2018年3月期 計画
				上期実績	年間計画	
EBITDA	226	307	353	179	351	415
自己資本比率	11.8%	15.4%	18.6%	18.6%	20.4%	25.0%
ROA	▲0.6%	1.4%	2.8%	3.3%	2.7%	3.5%
借入金	2,626	2,561	2,543	2,542	2,551	2,400

※ROA = {「当期純利益」+「支払利息」×(1-実効税率)} / {(前期末「資産合計」+当期末「資産合計」) ÷ 2}



本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因の変化により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2015年11月13日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR室広報IR課

03-6206-7044

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

